

# 熱田神宮 宝物館だより

熱田神宮宝物館  
編集 内田雅之

〒456-8585  
名古屋市熱田区神宮一丁目1番1号  
TEL (052)671-0852 FAX (052)671-1202  
(年6回発行)

## 11月平常展 一熱田神宮宝物展一

11月2日(金)～11月27日(火)  
(期間中無休)

※展示品は毎月入替いたします

特別陳列 第23回熱田の杜 東海現代刀匠刀剣展より



太刀銘 美濃國兼國作 1口  
平成二十九年十一月吉日

長さ 72.0cm 反り 2.0cm

附 菊桐紋散系巻太刀拵

しのぎづくり いおうむね  
鎬造、庵棟、腰反りがあり先伏しごころ、中鋒の太刀姿。  
いためはだ板目肌流れごころ、じにえ地沸つくじがね地鉄に、においくち匂口明るい互の目を主体に、すなが処々のたれ交じる刃文を焼き、砂流しかかる。帽子は乱れ込んで先小丸に返る。なかご茎は勝手下り、くうじり栗尻で、表裏に作者銘と年紀を切り分けている。

作刀者である兼國(本名尾川光敏)氏は、父の尾川邦彦(刀匠銘兼國)氏のもとで作刀技法を学んだ。平成3年に作刀承認を受けて日々鍛錬に勤しみ、高松宮賞、文化庁長官賞をはじめ、多くの榮譽に浴し、平成21年、無鑑査、同27年には関市の重要無形文化財の認定を受けた。

本口は依頼者の家に伝わる太刀拵(写真左)に納まるよう作刀依頼を受けたもので、地刃の美しさはいうまでもなく、同氏の技倆の高さを物語る一振りである。

### その他の主な展示品

◎重文 ○県文

- 《書跡・古文書》 ○寛永十三年熱田万句 徳川慶恕願文 他
- 《絵画》 大嘗会悠紀主基兩殿図 元文大嘗会御調度図 他
- 《工芸》 ◎黒漆根古志形鏡台 ◎入帷残闕 桐文散双鶴鏡 他
- 《刀剣》 ◎太刀無銘(伝真長) ◎劍銘為清 太刀銘長光  
短刀銘 備州長船倫光 短刀銘 備州長船利光 他  
永和二年八月日 忘永卅四年二月日



## 第23回 熱田の杜 東海現代刀匠刀剣展 展示リスト

No.	名 称	長さ	反り	作 者 名
1	金山彦命凶掛け軸			
2	刀 銘 兼道作之 平成二十八年春吉日	75.0	2.1	小島 應直
3	短刀 銘 兼道 平成二十六年秋	21.3	0.1	
4	刃物類			
5	短刀 銘 梵字 守護鎌田二郎家重代 美濃國住丹波兼信彫同作 平成三十年七月吉日	27.1	内反り	丹羽 清吾
6	脇指 銘 濃州住丹波兼信彫同作 平成二十八年一月吉辰	33.5	0.4	
7	刀 銘 美濃国福留藤原房幸作(花押) 平成廿六年八月朔想	72.2	1.9	福留 裕晃
8	太刀 銘 兼久戊戌歳之 平成丁酉年八月吉祥日	63.2	内反り	吉田 研
9	太刀 銘 兼久作 平成戊戌歳之	78.3	2.7	
10	太刀 銘 正也作 平成三十年春	76.1	3.0	吉田 政也
11	刀 銘 伊豆住貞人作之 平成十九年十一月吉日	76.7	2.0	榎本栄七郎
12	太刀 銘 美濃國兼國作 平成二十九年十一月吉日	72.0	2.0	尾川 兼國
13	菊桐紋散糸巻太刀拵			
14	刀 銘 美濃国住兼國作 平成十五年春吉日	74.7	2.0	
15	短刀 銘 美濃国兼國作 平成三十年春吉日	29.8	0.3	
16	短刀 銘 二十六代藤原兼房作 梵字 平成二十八年夏	20.0	0.0	加藤正文実
17	短刀 銘 二十六代藤原兼房作 梵字 平成二十八年夏	19.8	0.0	
18	刀 銘 二十五代藤原兼房作 平成二十八年春	78.6	2.6	加藤加津雄
19	大太刀 銘 三州岡崎住橘清兼謹造之「講和記念」 昭和二十七年八月吉日	105.0	4.2	筒井 清兼
20	脇指 銘 上 濃州住丹波兼延謹模之昭和庚戌春	35.4	0.3	丹羽 脩司
21	太刀 銘 御大典奉祝 謹 濃州住丹波兼延八十八寿鍛之 平成二年十一月日	76.5	2.0	
22	刀 銘 奉納熱田大神宮 濃州関住二十三'代藤原兼房作 昭和五十五年十二月吉日	76.5	2.0	加藤 孝雄
23	脇指 銘 濃羽関住兼時造之 昭和壬戌年八月吉祥	37.3	0.4	小島 寛二

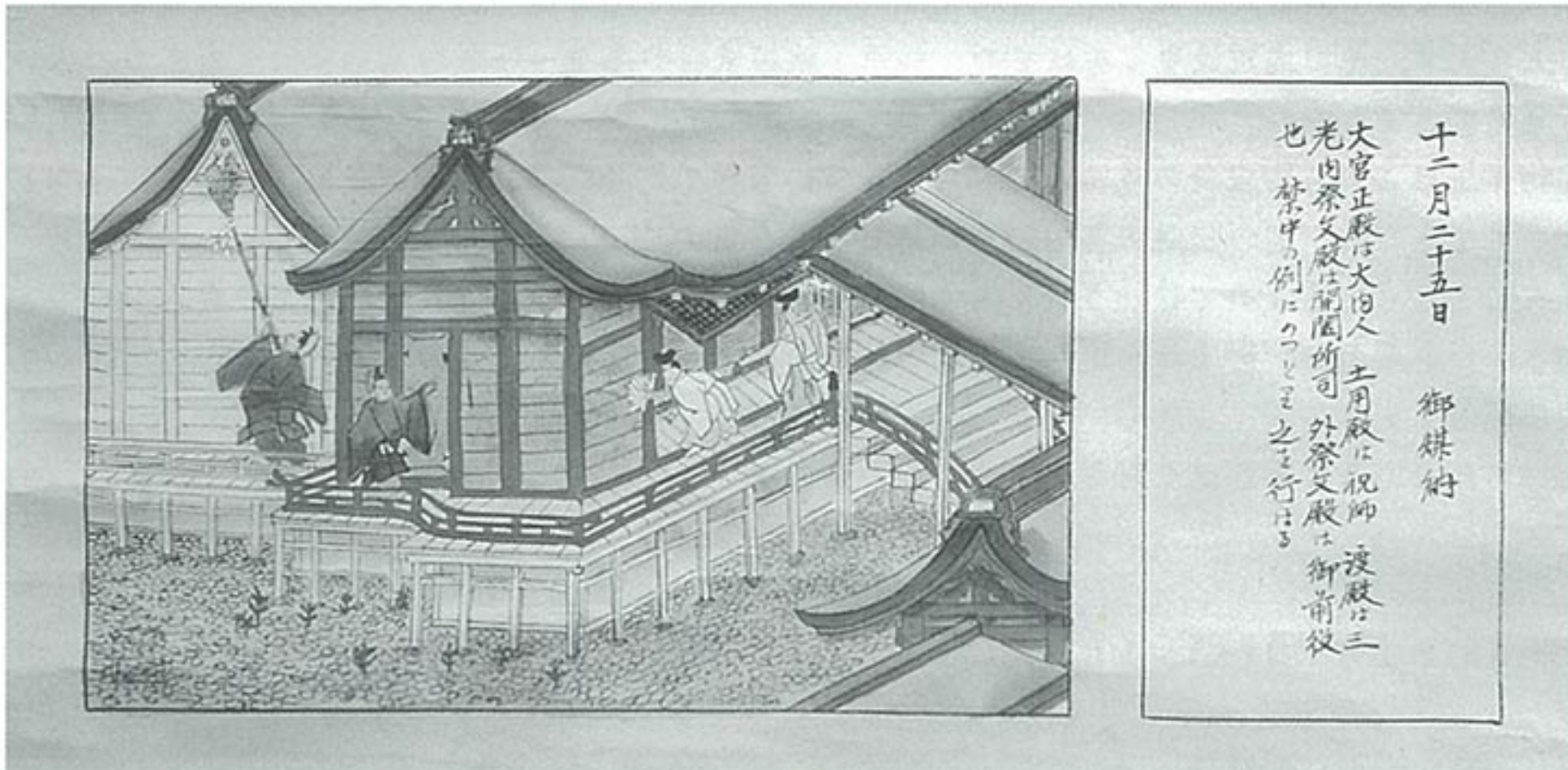


## 12月平常展 — 熱田神宮宝物展 —

11月30日(金)～12月24日(月)  
(期間中無休)

※展示品は毎月入替いたします

コーナー展 — 熱田神宮の祭典・まつり — より



現在の神事風景

おすすおきめ  
御煤納図 (年中行事片々の内) 紙本著色 1幅  
縦 27.0 cm 横 58.3 cm 石川英鳳筆 現代

『熱田祭奠年中行事図会』(名古屋市蓬左文庫蔵)の中から10件の神事を石川英鳳が抜粋・模写したものの1幅で、本画は12月25日に行われる御煤納神事の様子を描いたものである。詞書は鈴木松堂が携わっている。

古くは「御煤寄」とも称し、衣冠や狩衣装束の祭員が、忌竹やハタキを手に社殿に溜まった1年の埃を払っている様子を描いている。

詞書に各社殿を担当する神官の職名が記載されているが、江戸時代前期にまとめられた『年中行事書付』には正御殿は祝師、土用殿は大内人が務めたとある事から、奉仕場所の交代が行われたものであろうか。

## その他の主な展示品

◎重文 ○県文

《書 跡》 ○寛永十三年熱田万句 ○極細字法華経 織田信長朱印状写 徳川家茂知行朱印状 他

《工 芸》 ◎錦包挿鞋 ◎朱漆弓 ◎梓弓 ◎入帷残闕 蓬莱鏡 蓬莱柄鏡 亀背梅柄鏡 他

《刀 剣》 ◎太刀銘真行 ○太刀銘友重 太刀銘宇多国宗 刀銘兼元 脇指銘越前国下坂貞次 他

《考 古》 ○鉄地金銅張馬具 獅嚙式環頭大刀 双龍環頭大刀 内行花文鏡

《コーナー展示—熱田神宮の祭典・まつり—》 ◎金銅装唐鞍 ◎黒漆総覆輪鞍 ○熱田神宮踏歌祭頌文

木造舞楽面 陵王・納曾利 熱田神宮年中行事絵巻 夏越祓図—伊藤君樵筆— 舞楽之図—渡辺清筆— 他



## 予告 新春特別展「熱田神宮名宝展 ～宝物から見る歴史と信仰～」

およそ1900年という悠久の歴史をもつ熱田神宮は、その永い年月の中で、数多の人々から格別の崇敬を受け続けています。そしてその崇敬の証しといえるものが、現在、宝物館で保存・公開されている御宝物です。昨今を問わず、国家安泰や自身の祈願の際、また諸願成就の御礼として寄進されたこれら真心の証しはおよそ6,000点に上ります。その内訳は皇室をはじめ、將軍・戦国武将や藩主・一般の篤志家に至るまで、広い層から崇敬を集めてきました。

熱田神宮宝物館ではこれら御宝物の展示を通して当神宮御祭神の御神徳、また神道教化、さらには連綿と伝えられ昇華されてきたわが国の伝統工芸の粋を伝播しております。

本展は、先人のまごころをこめて献納された御宝物の中から著名な歴史上の偉人の献納品や古くから名宝として誉れ高き品々を展示し、御宝物を通して、熱田神宮の歴史、また先人たちの信仰の篤さを再認識して頂く事を目的に開催します。

新年の初詣にあわせ、是非御拝観くださいますよう御案内申し上げます。

- 会 期 平成31年1月1日(火)～1月29日(火)  
(会期中無休)
- 主 催 熱田神宮 中日新聞社
- 後 援 神社本庁 愛知県教育委員会  
名古屋市教育委員会 名古屋鉄道株式会社
- 拝観料 大 人 800円(500円)  
高大生 500円(300円)  
小中生 200円(100円)

※ ( ) は20名以上の団体等割引料金



◎蓬菜蒔絵鏡箱



◎表着 萌黄小葵地桐竹鳳凰文二重織



◎脇指 康継



◎松竹鶴亀文八稜鏡